

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4371000441		
法人名	医療法人社団直心会		
事業所名	もりのさとグループホームきくち せせらぎ		
所在地	熊本県菊池市藤田38-1		
自己評価作成日	平成27年3月6日	評価結果市町村受理日	平成27年4月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 九州評価機構
所在地	熊本市北区四方寄町426番4
訪問調査日	平成27年3月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

菊池市街から少し離れた菊池川清流の近くにあり、周りは緑に囲まれ静かでどかな雰囲気です。近くには公園があり散歩もできます、前方には神社があり散歩の帰りにお参りもします。道路を挟んで診療所があります。グループホーム設立当初からお世話になっており先生とはもちろんの事、職員さんとも信頼関係ができています。また郵便局、民家も隣接しており環境に恵まれています。ホーム内においては、入居者様のプライドを尊重し時間をかけてゆつくりと、その方のできることを見つけ出し力を発揮できる場面をつくる努力をしております。母体である森の里クリニックの協力も得られ、入居者様とご家族様が安心できるよう日々努力をしております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

入居者の身体機能が低下してきており、車椅子使用が多くなり、最近では胃瘻の入居者を受け入れられている。受け入れ時にはホームの職員全員で検討し、勉強会を重ね、家族と相談、医療機関と連携を図りながらリビングでケアしている。現在の厳しい職員体制で2ユニットの利点を生かしながら、チームワーク良く業務にあたっている。入居者の潜在能力を生かす取り組みを継続して実施しており、地域へのホームの認知度も高くなり、様々な情報を得られるようになっている。今後も地域の協力関係の強化への取り組みや、家族や地域住民のボランティアを巻き込んだ機会の取り組みなどの継続が期待されます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員会議で理念の見直しを行い職員全員一致で現在の馴染みのある理念を持続することになった。管理者と職員は、これまでに以上に理念を意識し理念の元、ケアを行っている。朝の申し送り時に理念の唱和を行っている	理念は職員全員で見直し、既存の理念を継続することとし、念頭に置いて業務にあたっている。玄関に入って正面や目につく場所に掲示し、毎朝唱和している。業務中で職員間で振り返りの機会を持つことがある。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	グループホームがどのような所なのかがよく地域の皆様に理解して頂けたようで散歩の際、気軽に声をかけてくれるようになった。また、お祭りなど行事の招待も多くなった。	近隣への散歩や運営推進会議の開催でのメンバーの啓発により、ホームの認知度が上がってきている。地域の夏祭りや近くの神社の祭りに出かけている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣にある菊池女子高校生徒の職場体験、ボランティアなどを受け入れ、実践をとうし、認知症の方の理解に努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	基本予定として開催日時を偶数月の第3火曜日午前10:30、開催場所は当施設とし構成員の皆様の都合に合わせて会議の終了時に次回の日時を決定するよう努め2ヶ月に1回開催している。	2ヶ月に1回開催されており、地域の区長、民生委員、家族会会長、行政職員、ホーム職員で構成されている。家族への会議への呼びかけは全員に行っている。ホームの入居者の状況や活動報告、事故報告、意見交換等がなされており、入居者のホームでの生活の様子を写真で紹介するなどしている。地域行事や活動に参加のお誘いなど情報を得ることができている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に菊池地域包括支援センター職員の方も参加していただき、密に情報の共有化を図っている。	運営推進会議に参加してもらい、市からの高齢者に関しての情報を話してもらったり、わからないことなどがある場合は電話や訪問し、気軽に相談できる関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員へ「身体拘束とは」という題目で研修を行い、身体拘束への理解を深め入居者が安心して安全に生活が送れるように配慮している。	内部研修において身体拘束の弊害について職員は理解しており、拘束のないケアをしている。ミーティングで話や振り返りの機会を持っている。言葉や薬などについての拘束に関しても理解している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員へ「虐待とは」という題目で研修を行い、虐待への理解を深め入居者が安心して安全に生活が送れるように配慮している。		

もりのさとグループホームきくち

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内研修の中で職員へ説明・指導を行っている。施設窓口を決め家族様や地域の方より相談があった際に、対応ができる体制を整えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	施設利用していただく前に、本人様又は家族様へ契約内容の説明を行い、納得していただくようになっている。又、施設利用内容に変更が生じた場合には、速やかに家族様へ説明を行い、利用断続の有無を確認をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	「家族会」という場を設け、利用者様・家族様が話しができる環境がある。そこでアドバイスいただいた内容については、職員会議で話し合い改善を図っている。	年2回、夏祭りとクリスマス会を兼ねた、家族会を開催している。家族による出し物や入居者と一緒に楽しまれており、終了後に意見や要望等を聞いている。面会の際にも積極的に話しかけ、入居者の健康状態や日頃の様子を報告している。面会の少ない家族には電話で報告している。出された意見は早急に話し合い、回答するようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回の職員会議を行い、意見交換・話し合いの場を設けている。	毎月の会議で職員の意見やアイデアを聞いている。毎日の業務中にも機会を持っている。ホームだけで解決できない場合は法人内のグループホームの事業所会議にあげ、検討することもある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務状況においても、職員の離職も少なく、労働時間・勤務内容を見直し、職員が安心して働くことができ、目標を持ち仕事に取り組むことのできる環境を整えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実践と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	鹿本・菊池ブロック研修会などの研修を受ける機会の確保、職員会議で勉強会を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	鹿本・菊池ブロックにおいて連絡が密に取れるネットワーク作りの環境を整えている。同法人内での見学研修も行い、同業者が交流のでき、相談・アドバイスなどができる環境づくりを行っている。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを導入する前に本人様・家族様へお会いし、話し合うことで、その方が安心して施設利用でき、職員へも利用者の方の情報を周知することで安心した環境作りを行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、サービス内容を一緒に話し合い、施設側が決めた生活にならないことを伝え、施設を理解していただき、密なコミュニケーションをとっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族への面談を行い、利用者様のアセスメントを作成し、本人・家族が今一番必要をしていることを見出し、今後に関わるケアプラン・環境作りを行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	理念にもあるように「絆」という気持ちを常に持ち、介護の中で一緒に生活をしているという思いで過ごしている為、利用者と共に食事を作ったり、洗濯物を畳んだり、利用者の方よりいろんなことを教えていただける環境にある。GHを利用される皆様が絆でつながり一つの大きな家族となっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者・家族・職員が一つの家族という思いを持ち共に支え合い、しっかりとした絆で“きくち”という家庭になれるよう努力している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	その方のバックグラウンドを大切に、これからの生活に活かしている。思い出の場所へドライブに行き、馴染みの方の面会をお願いしたりと、その方が施設を使用されていても、これまでの生活の中で合ったものはなくならないという思いで支援している。	今までの馴染みの関係を大切に考え、場所や親戚、友人などの情報を得て、継続した関係が続くように支援している。頻繁に友人の訪問がある入居者もおられる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	環境面において利用者同士が寄り添いソファに座り、洗濯物を協力して畳んだり、「こうするんだよ」などと言われる声も聞こえてくることもあり、利用者同士が支えあうことのできる関係づくりができています。これが新たな絆だと思います。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用を終了してからも行事等の案内を行い、「絆」という言葉を常に心掛け活動をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常のコミュニケーションの中で思いや意向を汲み取れるよう支援している。コミュニケーションが困難な入居者様は、生活暦を重視し本人の思い、意向に近づくように努めている。	日頃の関わりの中での会話や、入浴支援時など、入居者の気持ちが穏やかな時などに、思いや希望を把握できることが多い。困難な方は、質問時の反応やしぐさ、家族からの情報から得ている。情報は計画につなげるようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時等に本人様や家族様から情報を聴取し、フェイスシートを作成し、全スタッフがいつでも閲覧できるようにカルテに入れている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活の記録を行い、スタッフが確認できるようにになっている。変化があった場合は気づきノートに記載し、情報の周知徹底を図り、全スタッフが現状を把握できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者様ご家族様の意向を基本に各担当スタッフと情報交換を行いながら作成している。生活暦を重視し本人本位の生活が持続できるように計画作成に努めている。	入居者や家族の要望を取り入れ、現在の状態を考え、職員の意見や記録からの情報を加味し、3ヶ月に1回計画作成担当者がモニタリングを実施し、6か月毎に介護計画の見直しをしている。変化があればその都度見直し、変更している。作成した計画は本人、家族に説明し、了承いただいている。	計画に沿った介護記録になるように、書式を作成され、採用されています。より良い介護計画につなげるために記載される職員の質の均一化の取り組みが期待されます。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	対応の都度、日常記録に記載し、記録した内容は書面や口頭での申し送りにて全スタッフが情報共有できるよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	定期的な施設新聞の発行や家族会の開催など、家族様や施設の状況やニーズを伝え、地域の方々との関わりを大切にする事で、施設の持つ機能性や役割を理解していただいている。		

もりのさとグループホームきくち

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ホーム前にかかりつけ医である診療所があり、週に1回の往診のほかには状態変化時にも報告し往診をしていただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者様及びご家族様の希望に沿った医療機関での定期的な経過報告、受診を行っている。また状態変化時はその都度経過報告を行い必要時は、受診を行っている。	入居者や家族の希望する医療を受診できるようにしている。内科は協力医である、道路を隔てたところに位置するクリニックであり、2週間に1回の往診がある。緊急時や24時間、法人医療機関との連携が構築されている。他科に関しては家族による通院介助としており、受診先でおち合うこともある。その際には情報の共有を確実にしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	もりのさとクリニックとの24時間医療連携体制をとっており、定期的な訪問がある。また状態変化時は職場内の看護師と連携をとり、相談、助言、必要時は処置をしてもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づ	関係医療機関との情報交換または、ご家族様との情報交換を密に行い、入退院がスムーズに行えるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ケアの方向性や要望は、適宜家族様へ確認するようにしている。必要に応じて主治医より現在の身体状況なども説明していただいている。重度化した場合については、入居前の説明と一緒にっており、そのような状況になった場合は、随時ケアの方向性について話し合いを持っている。施設側もチーム体制を作り、主治医・訪問看護師・施設看護師・管理者・介護支援専門員と共に情報の共有を図り、取り組んでいる。	重度化や終末期についてのホームの方針は入居時に説明している。重度化した場合にはかかりつけ医と相談しながら進め、家族の意向に沿うようにする。現在、24時間目が離せない入居者がおられ、家族と相談し、職員間でも検討し進めている。現在は、看取りに関してはかかりつけ医や関係者との連携で進めることとしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時・事故発生時の対応マニュアルを作成し、定期的な研修の中で、研修計画を作成し、事故発生時の施設内研修を職員へマニュアルに沿った対応が出来る様に指導している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時などの時は、職員が直ぐに集まることの出来る様に職員緊急連絡網を作成している。又、市町村役場との連携がとれる様にしている。	年2回、火災消防訓練を実施している。昼夜想定で、入居者参加で実施している。職員の緊急連絡網の作成や市町村との連携はとれるようにしている。地域の災害時の役割分担を把握している。	近くに川があるため、増水時や地震などの緊急時の災害マニュアル等の作成が望まれます。

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員一人ひとりが自覚を持ち、人生の先輩として尊敬の意を持って言葉かけをしている。	職員は、入居者を人生の先輩として尊敬の意を持って業務にあたっている。気になる場面に遭遇した時は職員間で注意し合ったり、管理者や計画担当作成者から指導したり、会議の際に話題にすることもある。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様の希望や思いを察知できるように心がけ選択できるような声掛けを行っている。また嫌いな食べ物なども把握し食卓には、好みのものを提供できるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床・入浴など生活全般において、入居者様の気持ちを尊重し必ず同意を得てから行動している。散歩や買い物なども希望にそって支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時や起床時、入居者様に好みの服を選んで頂いている。散髪は希望があれば地域の美容室に来てもらったり、美容室で散髪されたい方は出掛けたりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	箸を配ったり、テーブル拭きなどできることをして頂いている。また献立作りの時に好みの料理を聞きだし取り入れ食事が楽しみなものになるよう努めている。	食事担当の職員が入居者の好みや季節感等を取り入れた献立を作成し、調理している。食事の準備はできる入居者と一緒にやっている。職員も同じ食事を会話や介助しながら摂っており、楽しい時間となり、また情報把握の時間となっている。嚥下能力に応じた食事形態で提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量・水分摂取量は、毎日チェックを行なっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、義歯洗浄誘導を行い本人の力に応じたケアを行うことで、口腔内の清潔保持に努めている。		

もりのさとグループホームきくち

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自立排泄にむけた支援を念頭に置き、お一人お一人の状態・力、またその日の状態に応じた排泄の仕方を心がけている。	入居者ひとり一人の排泄のパターンを把握しており、体調や気分を配慮して、時間や様子を見てトイレへの誘導をしている。昼間はトイレでの排泄支援をしている。夜間はポータブル使用や起きられる方、コールされる方などそれぞれに対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックを行い、水分補給・食事・散歩・運動により排便コントロールに努めている。必要時には、病院受診をし相談をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	記録を見て前日と当日の入居者様の状態を把握し、個々にそった入浴の支援を行い、入浴は楽しくて気持ちが良い事を入居者様と介護者が共有できる時間に行っている。	基本2日に1回の入浴支援としているものの、希望があれば毎日でも、時間もいつでも対応している。拒否の方は時間をおいて声かけしたり、タイミングを見て誘導したり工夫している。汚染時にはシャワー浴や清拭で対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様の、生活のリズムやパターンを日々の介護の中で、しっかりと把握しそれにそった休息や安眠の支援を行い、状態の変化にも気を配り安心して眠れるように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者様の服薬については、病院からの薬情報に必ず目を通し副作用や用法について把握できるよう努めている。尚、服薬の変更等については管理者又は看護師に情報提供を求めて服薬の支援を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	単調で退屈にならないように、レクリエーションをしたり調理の手伝いや洗濯物たたみ・食器拭きなどその方のできる事を見つけ出しして頂くよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節を感じて頂く為に花見やコスモス見学・バス旅行など行っている。また毎日、戸外での運動を希望される方には、可能な限り受け入れ支援している。	ホームの建物外の敷地の散歩や外気浴、日光浴をしている。季節ごとに花見やドライブに出かけている。希望があれば、買い物にも出かけている。家族の協力を得ることもある。	常時車いす使用の入居者が多く、外出が難しくなっているようです。家族や地域の方の協力等を得られる取り組みが期待されます。

もりのさとグループホームきくち

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物の際は、希望される物を職員が購入したり希望があれば入居者様と一緒に買い物に行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をする際は、職員が準備をしている。入居者様が利用したい時に利用して頂いているが、帰宅願望が強く頻繁な方は、家族様の事も考慮し臨機応変に対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じることでできる飾りつけや食事作りをし、ホールには入居者様と職員が一緒に作った籠やぬい絵を飾っている。居室には、自宅で使用されていた馴染みの家具などを持ってきて頂くよう努めている。	玄関外には季節の花を植えたプランターが置かれ、建物内は季節を感じられる装飾がしてある。例年馴染みの高校から折り紙カレンダーをいただいたり、実習生からのお礼の手紙や家族会の写真やイベント時の写真が貼られており、ホームの生活の様子がうかがうことができる。共有空間は車いすでもゆっくり移動できるように空間が確保してある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	昔からのお友達や気の合う入居者様同士が会話が出来るように環境作りに努めている。また横になったり、くつろいでテレビなど見れるようにソファの位置を工夫したりし落ち着ける空間作りに努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様の馴染みの家具や好まれる物を揃えていただき日常使用される物は、手の届く範囲に置き居心地良く過ごせるよう支援している。	入居時に家族に依頼して、使用されていた家具や生活用品が持ち込まれている。時計やたんす、ぬいぐるみや家族の写真等が飾られており、それぞれに居心地の良い居室作りの支援がしてある。居室の入り口には花の名前の表札がかけてある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホール内のトイレ移動・居室への移動の際ぶつかったり、転倒が無いよう不用品をホールに置かないようにしている。またホーム内の廊下には、すべて手すりを設置している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4371000441		
法人名	医療法人社団 直心会		
事業所名	もりのさとグループホームきくち そよかぜ		
所在地	熊本県菊池市藤田38-1		
自己評価作成日	平成27年3月6日	評価結果市町村受理日	平成年月日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 九州評価機構		
所在地	熊本市北区四方寄町426-4		
訪問調査日	平成27年3月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

菊池市街から少し離れた菊池川清流の近くにあり、周りは緑に囲まれ静かでのどかな雰囲気です。近くには公園があり散歩もできます、前方には神社があり散歩の帰りにお参りもします。道路を挟んで診療所があります。グループホーム設立当初からお世話になっており先生とはもちろんの事、職員さんとも信頼関係ができています。また郵便局、民家も隣接しており環境に恵まれています。ホーム内においては、入居者様のプライドを尊重し時間をかけてゆつくりと、その方のできることを見つけ出し力を発揮できる場面をつくる努力をしています。母体である森の里クリニックの協力も得られ、入居者様とご家族様が安心できるよう日々努力をしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

Ⅴ. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員会議で理念の見直しを行い職員全員一致で現在の馴染みのある理念を持続することになった。管理者と職員は、これまで以上に理念を意識し理念の元、ケアを行っている。朝の申し送り時に理念の唱和を行っている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	グループホームがどういう所なのかがようやく地域の皆様に理解して頂けたようで散歩の際、気軽に声をかけてくれるようになった。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣にある菊池女子高校生徒の職場体験、ボランティアなどを受け入れ、実践をとうし、認知症の方の理解に努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	基本予定として開催日時を偶数月の第3火曜日午前10:30、開催場所は当施設とし構成員の皆様の都合に合わせて会議の終了時に次回の日時を決定するよう努め2ヶ月に1回開催している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に菊池地域包括支援センター職員の方も参加していただき、蜜に情報の共有化を図っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員へ「身体拘束とは」という題目で研修を行い、身体拘束への理解を深め入居者が安心して安全に生活が送れるように配慮している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員へ「虐待とは」という題目で研修を行い、虐待への理解を深め入居者が安心して安全に生活が送れるように配慮している。		

もりのさとグループホーム きくち

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内研修の中で職員へ説明・指導を行っている。施設窓口を決め家族様や地域の方より相談があった際に、対応ができる体制を整えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	施設利用していただく前に、本人様又は家族様へ契約内容の説明を行い、納得していただいた上で施設利用をしていただこうとしている。又、施設利用内容に変更が生じた場合には、速やかに家族様へ説明を行い、利用断続の有無を確認をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	「家族会」という場を設け、利用者様・家族様が話しができる環境がある。そこでアドバイスいただいた内容については、職員会議で話し合い改善を図っている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に2回の職員会議を行い、意見交換・話し合いの場を設けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務状況においても、職員の離職も少なく、労働時間・勤務内容を見直し、職員が安心して働くことができ、目標を持ち仕事に取り組むことのできる環境を整えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	鹿本・菊池ブロック研修会などの研修を受ける機会の確保、職員会議で勉強会を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	鹿本・菊池ブロックにおいて連絡が密に取れるネットワーク作りの環境を整えている。同法人内での見学研修も行い、同業者が交流でき、相談・アドバイスなどができる環境づくりを行っている。		

もりのさとグループホーム きくち

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを導入する前に本人様・家族様へお会いし、話し合うことで、その方が安心して施設利用でき、職員へも利用者の方の情報を周知することで安心した環境作りを行っている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、サービス内容を一緒に話し合い、施設側が決めた生活にならないことを伝え、施設を理解していただき、密なコミュニケーションをとっている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族への面談を行い、利用者様のアセスメントを作成し、本人・家族が今一番必要をしていることを見出し、今後に繋がるケアプラン・環境作りを行っている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	理念にもあるように「絆」という気持ちを常に持ち、介護の中で一緒に生活をしているという思いで過ごしている為、利用者と共に食事を作ったり、洗濯物を畳んだり、利用者の方よりいろんなことを教えていただける環境にある。GHを利用される皆様が絆でつながり一つの大きな家族となっている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者・家族・職員が一つの家族という思いを持ち共に支え合い、しっかりとした絆で繋がっている。入居家族様がユニットの入居者様の誕生日を把握され、他の入居者様の為に誕生日にプレゼントを持って来られたりと、GHに関わる人が皆一つの絆で繋がれ、一つの家族になった瞬間でもあった。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	その方のバックグラウンドを大切に、これからの生活に活かしている。思い出の場所へドライブに行き、馴染みの方の面会をお願いしたりと、その方が施設を使用されていても、これまでの生活の中で合ったものはなくならないという思いで支援している。			
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	環境面において利用者同士が寄り添いソファに座り、洗濯物を協力して畳んだり、「こうするんだよ」などと言われる声も聞こえてくることもあり、利用者同士が支えあうことのできる関係づくりができている。これが新たな絆だと思います。			

もりのさとグループホーム きくち

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用を終了してからも行事等の案内を行い、「絆」という言葉を常に心掛け活動をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常のコミュニケーションの中で思いや意向を汲み取れるよう支援している。コミュニケーションが困難な入居者様は、生活暦を重視し本人の思い、意向に近づくように努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時等に本人様や家族様から情報を聴取し、フェイスシートを作成し、全スタッフがいつでも閲覧できるようにカルテに入れている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活の記録を行い、スタッフが確認できるようになっている。変化があった場合は気づきノートに記載し、情報の周知徹底を図り、全スタッフが現状を把握できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者様ご家族様の意向を基本に各担当スタッフと情報交換を行いながら作成している。生活暦を重視し本人本位の生活が持続できるように計画作成に努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	対応の都度、日常記録に記載し、記録した内容は書面や口頭での申し送りにて全スタッフが情報共有できるよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	定期的な施設新聞の発行や家族会の開催など、家族様や施設の状況やニーズを伝え、地域の方々との関わりを大切にする事で、施設の持つ機能性や役割を理解していただいている。		

もりのさとグループホーム きくち

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ホーム前にかかりつけ医である診療所があり、週に1回の往診のほかには状態変化時にも報告し往診をしていただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者様及びご家族様の希望に沿った医療機関での定期的な経過報告、受診を行っている。また状態変化時はその都度経過報告を行い必要時は、受診を行っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	もりのさとクリニックとの24時間医療連携体制をとっており、定期的な訪問がある。また状態変化時は職場内の看護師と連携をとり、相談、助言、必要時は処置をしてもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	関係医療機関との情報交換または、ご家族様との情報交換を密に行い、入退院がスムーズに行えるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ケアの方向性や要望は、適宜家族様へ確認するようにしている。必要に応じて主治医より現在の身体の状態なども説明していただいている。重度化した場合については、入居前の説明と一緒にっており、そのような状況になった場合は、随時ケアの方向性について話し合いを持っている。施設側もチーム体制を作り、主治医・訪問看護師・施設看護師・管理者・介護支援専門員と共に情報の共有を図り、取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時・事故発生時の対応マニュアルを作成し、定期的な研修の中で、研修計画を作成し、事故発生時の施設内研修を職員へマニュアルに沿った対応が出来る様に指導している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時などの時は、職員が直ぐに集まることの出来る様に職員緊急連絡網を作成している。又、市町村役場との連携がとれる様にしている。		

もりのさとグループホーム きくち

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員一人ひとりが自覚を持ち、人生の先輩として尊敬の意を持ってプライドを傷つけないような言葉かけをしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様の希望や思いを察知できるように心がけ選択できるような声掛けを行っている。また嫌いな食べ物なども把握し食卓には、好みのものを提供できるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床・入浴など生活全般において、入居者様の気持ちを尊重し必ず同意を得てから行動している。散歩や買い物なども希望にそって支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時や起床時、入居者様に好みの服を選んで頂いている。散髪は希望があれば地域の美容室に来てもらったり、美容室で散髪されたい方は出掛けたりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と一緒に調理をしたり、食卓をを囲み同じ食事を取り会話を楽しんでいる。また献立作りの時に好みの料理を聞き出し取り入れ、食事が楽しみなものになるよう努めている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量・水分摂取量は、毎日チェックを行なっている。また入居者様の状態にあわせて食事形態も考慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔内を清潔に保つ為、義歯の洗浄・歯磨きの誘導等を行い個々にあった口腔ケアを行い清潔保持に努めている。		

もりのさとグループホーム きくち

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレ誘導介助が必要な方、自力で排尿ができる方など日々の身体状況に合わせてできるだけオムツにならないよう自立にむけた支援をしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックシートを毎日確認し、水分補給・適度な運動・食事で排便コントロールを行っている。必要時には、病院受診し医師に相談している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	前日の記録に目をとし、体調の確認を行い、希望にそって入浴を行っている。入浴が楽しみのひとつになるよう努めている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活パターンを把握し入居者様の状態も異なってくるので状況に応じて安眠できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬一覧表を作成し職員が副作用や用法などについて把握できるよう配慮している。服薬内容の変更時は管理者・看護師からの説明・申し送りによって職員の把握に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食器拭きや野菜の切り刻み・洗濯物たたみ・新聞折など楽しみながらできるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は、職員と公園や神社へ散歩にでかけたり、ホームの庭でゲートボールを楽しんだり買い物に出かけたりしている。		

もりのさとグループホーム きくち

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望の物を購入される場合はお金を渡し、本人様にお支払いをしていただけるようにしている。金銭の管理は施設にて行っているが、お金を持つことの大切さを職員もしっかりと理解し対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の際、入居者様が利用したい時に職員が対応し電話の準備をしている。入居者様・家族様・職員との体制を整え常に連携を図っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じることの出来る飾り付けや、ホールには入居者様と職員が一緒に作った籠やぬり絵などを飾っている。居室には自宅で使用されていた馴染みの家具を置いている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者様の体調、気分にあわせ会話交流の場を提供し、見守り職員がフォローを徹底している。イベント事などを取り入れ、参加していただいている。椅子やソファの配置にも気を配り、環境作りにも努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	衣類の整理や入居者様の手の届かない場所の清掃、家具の配置などは職員が入居者様の好みに合わせ行っている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	できる事、わかることは職員が把握に努め、生活の中でそれらを生かせるような働きかけを行っている。また、安全に行動できるよう本人の心身状態に合わせた環境整備を行っている。		

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1		近くに川があるため、増水時や地震などの緊急時の災害マニュアル等の作成が望まれます。	地震、水害時の館内での入居者様の安全確保ができる場所、また避難場所までの移動の仕方のマニュアルを作成する。	館内の危険箇所、居室内の危険箇所を把握し館内の安全確保ができる場所を職員全員で考え、避難場所までの迅速な移動ができるマニュアルを作成する。	24ヶ月
2		常時車いす利用の入居者が多くなり、外出が難しくなっているようです。家族や地域の方の協力等を得られる取り組みが期待されます。	日頃は、散歩の機会を多く作るようにする。季節に応じて花見や地域の夏祭り秋祭りの招待を受けたときはひとりでも多くの入居者様が参加できるよう努力する。	日頃は、神社への散歩や敷地内の芝生でおやつを食べたりなど外に出るように努力する。季節に応じて花見や菊祭り地元の夏祭りや秋祭りに招待を受けたときには、ひとでも多くの入居者様が参加できるよう努力していきたい。	24ヶ月
3		計画に沿った介護記録になるように、書式を作成され、採用されています。より良い介護計画につなげるために記載される職員の質の均一化の取り組みが期待されます。	介護記録の意義、重要性を職員全員が理解し、入居者様の生活が分かる記録、サービスの評価となる記録ができる。	介護記録に関しての勉強会を計画、開催し、介護記録の意義重要性を、理解できるよう努める。	24ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。